

日 時 令和○年○月○日 (○) ○校時  
場 所 ○○○○○  
学 級 ○年○組 男子○人 女子○人  
指導者 ○○ ○○

研究主題「 \_\_\_\_\_ 」

1 単元名 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 「 内 容 」 ( 領 域 )

2 単元について

(1) 運動の特性

- 機能的特性・その運動が持つ楽しさ。喜び。
- 構造的特性・その運動の技術的な仕組み。
- 効果的特性・その運動の身体的発達に対する効果。

学習指導要領を参考に記載する。各種運動を行う上で、運動の特性を理解する必要がある。

(2) 生徒から見た特性

- 生徒と運動との関係から運動の特性を捉え直す。
- ・運動をどのように受け止めているのか。
  - ・運動のどこに楽しさや喜びを感じているのか。(阻害要因も) など

(3) 生徒の実態

実態調査の結果(児童生徒の興味・関心、学びの状況、技能の状況等)を分析する。

- ・具体的な内容がわかる実態調査を行う。  
例) マット運動が嫌い。理由:体が硬くて思うように動けないから
- ・質問項目に気を付ける。  
例) バレーボールはやった事がないが、ソフトバレーボールならある。  
ハンドボールはやった事がないが、ゴール型は学習している。など
- ・既習について調査する。  
例) 小学校での学び、前学年までの学び、技能の習熟度 など

(4) 指導観(単元観や生徒の実態を踏まえながら、どのように指導するのか具体的に記述する。)

- ・この単元を通して、どんな力を身につけさせたいのか。単元終了時にはどんな姿をイメージしているのか。教師が持つ「ゴールイメージ」を明確にする。
  - ・ゴールイメージを達成するためには、どんな手立てが必要か。
- ※～を工夫する。とあるが、なぜ工夫が必要なのか。どのような工夫をするのか具体的に記載する。
- 要点を絞り、簡潔に書く。

### 3 単元目標

- (1) . . . . . (知識及び技能)
- (2) . . . . . (思考力・判断力・表現力等)
- (3) . . . . . (学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容に応じて記載する。  
【語尾】～できるようにする。

### 4 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準	<p>「知識」については、学習指導要領の(1)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～について理解している。」として作成する。</p> <p>「技能」については、学習指導要領の(1)で育成を目指す資質・能力に該当する各型(領域の内容)の技能の指導内容について、その文末を「～できる」として作成する。</p> <p>※知識・技能を、上下に分けて記載する。</p>	<p>「思考・判断・表現」では、学習指導要領の(2)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～課題を発見し、～を工夫するとともに、～を他者に伝えている。」として作成する。</p>	<p>「主体的に学習に取り組む態度」では、学習指導要領の(3)で育成を目指す資質・能力に該当する指導内容について、その文末を「～している。」として作成する。</p>
単元の評価規準	<p>上記の「内容のまとめりごとの評価規準」と、指導計画における生徒の活動を考慮し、学習活動レベルに対応したより具体的な「単元の評価規準」を作成する。学習指導要領の例示を参考にする。 (これは、これまでの「学習活動に即した評価規準」と同じ性質をもつ。)</p>		
	<p>○知識</p> <p>①(知識)～について、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②(知識)～について、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①(技能)～できる。</p> <p>②(技能)～できる。</p>	<p>①～している。</p> <p>②～留意している。 (健康・安全の場合)</p>
	<p>※知識(左) 技能(右) 分けて記載する。</p>		

本時は、丸数

5 指導と評価の計画

時	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	
単元のねらい	<p>単元目標達成に向け、学習の方向性を示した「単元のねらい」を簡潔に記載する。</p>												
学習の道すじ	<p>ねらい1 ○○・・・ ねらい2 △△・・・</p>												
学習の流れ	0	<p>単元終了をイメージし「単元のねらい」達成に向けた教師が持つ「学習の道すじ」を記載する。</p>											
	10	<p>・学習の道筋に準じて学習活動のまとまりを整理し、単元全体の学習が系統的に組織されているように示す。 ・線で区切りをつける際、点線は時間的に前後する可能性がある場合、実線は概ね時間が決まっている場合に使用する。</p>											
	20												
	30												
	40												
	50												
指導と評価の機会	知	②											
	技	<p>何をいつ指導②し、→指導継続、いつどのように評価（観察）するか示す。</p>											
	思	<p>・技能習得や態度育成は、指導から習得までに一定期間必要となるため、十分な期間を設け評価できるようにする。 ・思考・判断・表現の評価は、知識を活用し課題解決を目指すことから、知識・技能を評価した後に評価できるようにする。</p>											
	態	<p>・1単位時間の評価項目は1、2個程度とする。</p>											

6 本時の指導 (○/○)

(1) 本時の目標

- ◎ (知識及び技能)
- (思考・判断・表現力等)
- (学びに向かう力、人間性等)

「5 指導と評価の計画」の「指導と評価の機会」のうち評価に該当する観点を◎ その他を○で示す。

(2) 本時の展開

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○), 評価 (☆)	用具・資料
はじめ	〇〇分		<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;">☆評価規準・評価計画に基づき、評価の場面を具体的に示す。</div>	課題解決に必要な教具、教材、資料を記入する。
なか	〇〇分	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">本時のねらい</div> <p>(予想される生徒のめあて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・~~~~。</li> <li>・~~~~。</li> <li>・~~~~。</li> </ul> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ねらいに準じためあての設定がされているか事前にノート等を確認し、具体的に記載する。</p> <p>生徒個人あるいは、チームのめあてとなる。</p> </div>	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;">○努力を要する生徒の姿をイメージして、具体的な支援や手立てを記入する。</div>	
まとめ	〇〇分			

(3) 学習の場

学習の場を図で示す。